

# HopStepJump 11

<https://toyono-jinjikyoo.com/>

## 児童生徒理解を深めるために②

～ いじめ防止・対応を中心として～

初任者研修第 11 回は、豊中市教育委員会事務局学校教育課人権教育係の加納真由美指導主事に「いじめ防止・対応を中心として」というテーマでご講義いただきました。

いじめの問題は深刻であり、どの学校、どの児童生徒にも起こりうるという認識のもと、未然の防止、早期の適切な対応が求められています。今回の研修では「いじめは重大な人権侵害」という視点で、子ども一人ひとりに寄り添って、いじめに対してどのように防止・対応していくかということグループワーク等も交えながら学びました。研修の後半には近年、急増しているインターネットを通じて行われるいじめについてもご講義いただきました。

今回の研修を通して、子どもたち一人ひとりの「命」、「心」を預かっているという責任を改めて受け止めることができたのではないのでしょうか。

### ～振り返りシートより～

「いじめを許さない」と言うことは簡単ですが、本当に今の学校、クラスが子どもたちにとって安心・安全な場所であるのかも一度、振り返ることができました。もしかするといじめられているかもしれないと常に子どもたちの表情・行動・小さな変化を見つけることが大切だと思いました。

この仕事についてからはいじめがクラスや学校で起こらないように子どもたちの関わりには注意をしています。でも、教室の様子だけではなく、休み時間や放課後の様子にももう少し気を配らなくてはと考えさせられました。低学年のうちから「いじめはダメだ」としっかりと伝えることを大切にしたいなと感じました。

「集団の中に入って行くのではなく、集団の中の子どもと子どもをつなげていくのが教師の役割」という言葉が印象に残りました。子どもと仲良くなりたいたいと思うのはもちろんのことだとは思いますが、その思いだけでなく、広い視野で一歩下がって観察することが大切だと学びました。

いじめの構造図を見て、加害者、被害者よりも圧倒的に傍観者が多いので、「いじめを許さない」という意識をつけさせるのはもちろんですが、もし、いじめの現場を見た時に、「それはいじめだよ」とはっきり言えるような力や、言っても二次被害が起こらないような環境であることが必要だなと思いました。

後半のインターネットと人権の話では、インターネットの手軽さ、便利さが生み出す良さや課題について改めて考え、インターネットが生活の身近なところにある現在の子どもたちにどのようなことを伝えていくべきなのかを考える良い機会となりました。指導の中ではどうしてもマイナス面ばかりを伝えがちですが、良さについてもきちんと伝え、正しい方法で上手に付き合っていけるようになってほしいと思いました。また、班交流の中で発信側だけでなく、受け手として情報を取捨選択することについても意見が出て、「なるほど」と思いました。

今回の研修を受講して集団づくりはとても大事なんだと改めて感じました。それと同時に、先生の気づきもとても大事だと感じました。その気づきは些細なことかもしれませんが、その気づきで目の前にいる子どもに声をかけることによって、たとえ何もなかったとしても嬉しい気持ちになると思います。もちろん、嫌な思いをしている子は先生に対して自分の気持ちや今、起こっていることを正直に話すきっかけになるかもしれません。目の前にいる子どものしんどさやつらさをいち早く分かることができるのは学校の先生だと私は思っています。子どものメッセージを理解し、気づいてあげることができる先生になりたいです。

いじめや差別などの人権に対する感覚無くて教育現場では働くことができないと思います。子どもたちの交流の中で必ずそういった問題に直面する場面が出てきます。その時、教師としての発言や行動は子どもたちの将来に大きな影響があると思います。だから、日々、自分自身の人権感覚を正しく養うためにも多くの人と話したり、書物を読んだり、研修に参加したりすることが非常に大事であると改めて考えさせられました。